

# エゾマツ



## 2023 春季号 144

北海道ボランティア・レンジャー協議会

ホームページ



<http://voluran.com/>

巻頭言	ボラレンの活動の灯を引き継ぐ .....	会長 春日 順雄	.. 1-2
2023(令和5)年度	事業計画(案) .....	事務局	.... 3
〃	自然観察会等のご案内[一般配布用](案) ..	事務局	.... 4
〃	主催自然観察会等のご案内 〃 ..	事務局	.... 5
〃	小樽支部自然観察会予定表 .....	小樽支部	.... 6
寄稿	「円山登山観察会」に初めて参加して ..	札幌市手稲区 北嶋ゆかり	.... 7
随筆	ななかまどの思い出 .....	苫小牧市 榎戸 克美	.... 8
投稿	登らず・見ず・食わず .....	札幌市清田区 堀川 勉	.... 9
〃	『昆虫はどうやって植物に 「虫こぶ」をつくらせるのか?』 .....	札幌市南区 宮津 京子	.. 10-11
〃	オホーツク支部活動報告 ～『親子自然観察会』を開催して ...	清里町 千葉 亮	.. 12-14
報告	「ボラレンのこれから検討委員会」実施報告 .....	検討委員会	.. 15-18
トピックス	伊達市の木村益巳さん「植物図鑑風冊子を自費出版」 ..	編集部	.... 19
会員の近況コーナー	江別市 内山 恭子、札幌市厚別区 藤吉 功 .....	編集部	.... 19
話題提供	2022.11.4 「巨樹・巨木」を遊ぼう ..	札幌市厚別区 藤吉 功	.. 20-21
パラボラ	2023.6.1指定の「条件付特定外来生物」って何? .....	編集部	.... 22
事務局だより	2022年度 第3回役員会の概要 2023.1.14 開催 ..	編集部	.... 23
お知らせ	2023「エゾマツ」発行計画と原稿募集-編集イメージ ..	編集部	.... 24
〃	総会日程、事業計画(案)のことほか、編集後記 .....	編集部	.... 25

## 2023 春「エゾマツ」144号／表紙の写真説明

編集部



今号の表紙は、北国の春を彩る高木「キタコブシ」にスポットを当ててみました。

写真／左上から時計回りに、①厳しい寒さに耐える白い毛におおわれた鱗芽～花芽は大振り。厳冬期 ②麗らかな陽気に誘われ、満開を迎える。4/下旬。 ③キタコブシの花は、多数の雌しべがらせん状に付いており、それを取り囲むように多数の雄しべがついている。花びらは大きく6枚。4/下旬 ④稔りの秋に向け、果実(袋果)が着実に成長中。7/下旬。 ⑤秋の深まりと共に、果実を覆っていた皮が裂けて朱色の仮種皮に包まれた種子が見えてきた。名前の由来とされる「握りこぶし」に見えますか。10/上旬。 ⑥熟した種子がぶら下がる。引っ張ると、びょーんと糸状に伸びる。10/下旬。 果実は、野鳥たちがせせと丸呑み?..種子散布に役の光景も楽しみ。

※裏表紙は、「スプリングエフェメラル～春の妖精」と呼ばれる春植物の一つ、「エゾエンゴサク」です。



山で道に迷ったら、引き返せという。ボラレン活動を振り返ってみました。

ボラレンは、1986（昭和61年）8月29・30日、支笏湖開催の第1回ボランティア・レンジャー育成研修会受講者で有志のあるもの集いて発足しました。12月6日、「エゾマツ会」として会則執行。会報誌「エゾマツ」第1号の発行は、1987年6月1日。その後、37年間、多くの担い手によって活動を引き継いできました。

### <活動は決して順風満帆ではありませんでした。>

私の記憶を綴ることにしよう。経済的に脆弱なボラレンに旗作成など経済的支援をおしなかった人あり。「自然観察NOW」と「エゾマツの巻頭言」の執筆を一手に引き受けた人あり。会計業務を一手に引き受けた人あり。多くの会員の支えによって今日があります。

会員減によって破綻するのではという心配は、いつもつきまといました。観察会の時、案内人は集まってくれるかなという心配もありました。

### <どうしてボラレンは長続きしてきたのかな>

#### ◆継続の要点1 仲良しだったから

記憶をたどってみます。役員会は、「ドンマイ、ドンマイ！」でやっていました。提案の不適や説明の不手際を厳しく指摘することはなく、皆で補い合ってボラレン活動は機能していました。観察会では、とっさに動く気遣いをする会員の行動もイッパイあったな。役員会に出る役割でないのに出てくる人もいたな。人恋しかったのでしょうか。そんな事も許し合える雰囲気だったな。役員会ではもっぱらエルプラザ。役員会が終わったら近くの居酒屋に行くことが多かった。酒は心の栄養だから。仲良しのみなもとだった。

総会には20数名もの参加が必ずありました。これは大きな数です。こんなに集まる団体はないな。総会が終わったら、引き続き懇親会です。これも20数名もの参加がありました。年末には忘年会があり、20数名もの参加者があった。いくらいいいことやっても人の心を壊したら駄目を知っていたボラレン仲間たちでした。ボラレン活動を支えるベーシックなところに、人の心を培う「仲良し」があった。

#### ◆継続の要点2 案内の楽しみがあった

私は、観察会案内人の見習いからの出発でした。下見の時、観察会本番のとき、メモをとったな。家に帰ってメモを見ながら図鑑や参考図書で調べることは楽しいことでした。

案内人としてのひとり立ちはある日、突然やってきました。その日、案内人の集まりが少なかった。誰の指示だったかな。突然、案内人になった。緊張の一日でしたが、案内人としての巣立ちを促す先輩の言葉があり、仲間の温かいまなざしがあったことを肌で感じました。案内の回数が増えてくると、私と参加者の間に「問いかけとうなずき」の問合いも出てきました。案内することは楽しいことです。参加者に満足と感謝の表情が見られた時は至福のひとつときでした。観察会案内を楽しむは、案内人みんなが持っています。ボラレン活動の原動力です。

#### ◆継続の3 学びあう楽しみがあったから

自然を仲立ちに仲間とオシャベリをすることや他者のオシャベリを聞くのも楽しかった。目的無しのオシャベリは無駄だと思っではいけません。会話は、知的生産の一つの方法です。自分の持っていない情報を受け取ったり、自分の持ち合わせていない感性に学ぶこともありました。楽しかった。

宿泊を伴った研修も楽しかったな。様似のアポイ岳・富良野の東大演習林・富良野原始が原・朱鞠内の北大演習林・鶴川で海浜植物と千鳥の観察・平取にも行ったな、そして、一番ビッグなのはオホーツク支部秋季研修会、沢山迷惑をかけしましたが、研修の充実感は脳裏を離れません。宿泊の夜は、かならず懇親会がありました。「酒は心の栄養だから」会員の心が温かくつながりました。

会員が頑張っているフィールドへの日帰り研修も楽しかった。石狩浜の海浜植物の研修。登別のキウシト湿原。

若かったんだな。遠距離も果敢にこなしたな。最高の遠距離は、知床の岩尾別から、札幌まで、

ほぼ一気に帰ったのですから、今では驚きです。

若かったんだな。「愚者で無ければ大きな事を為さず」と言いますが、石橋をたたいて渡るような緻密さは無かったが、楽しい大きなことができた。ボラレンには、集まってすぐに発揮できる瞬発力があつたな。おおらかなところがあつたな。

#### ◆継続の要点4 探究心があつたから

版画家の棟方志功は、「俺は日本一になる」といつも公言していたそうです。何の日本一になるのかは分からないままに「日本一になる」と公言していたそうです。そして、日本一の彫刻家になりました。

ボラレン会員も「いい案内人になる」と思っています。「俺はいい案内人になる」の思いは神様に通じることでしょう。

観察会下見は、多くの案内人を育てました。私も育てられたうちの一人です。下見と本番の二日続きの日程はきついが、よくも続いてきたものです。「弟子とおっ師匠さん」の関係みたいだったな。教えてはくれなかったが真似ることで成長したな。

下見時の話題提供も後輩を育てるという考えで始まりました。内容が難しいという人もいますが、上を向いて進もう、絶えず探究心が感じられる提言がおおい。

「自然観察NOW」の発行も、よくもこれまでに続いてきたものです。

下見時の話題提供による学び、「自然観察NOW」発行は、ボラレンにとって誇るべき事業です。執筆は確かに辛いな。でも、振り返ってみれば、執筆者が一番勉強もしたし、得をしたことになるな。ボラレン会員は、みんな探究心の塊のようなところがあります。

#### <ボラレンの役員の担い手がいない。これは令和6年にも同じことが起こるな>

令和4年度のスタートは困った。前途を見失い「ボラレン解散」に思いを馳せました

#### <「ボラレンのこれから検討委員会」報告書で覚悟したこと>

1, アンケート回答者の7割以上の会員がボラレン継続を望んでいます

2, 「ボラレンの暖簾」は大きいということ

「暖簾の元で商売をさせて戴いている」と商売人はいいます。そうなんだ、「ボラレンの暖簾」で活動している会員がいるんだ

3, 令和5年度は、熱意を持ってボラレン存続に取り組む年だ

4, このままでは、令和6年度は、役員の担い手のことで難渋するな

でも、周りを見回して見たら、電話番号と数人の社員で会社を経営しているところも沢山あります。ボラレン役員はこんなに人数がいるではないか。やる気を起こしましょうや！

#### <結論>ボラレン活動の基調は、「おおらかに」、「仲良く」、「ドンマイドンマイ」で

1, 「反対の合一」律儀であっておおらか、「きびしさ」と「優しさ」など、片方だけは駄目。人を大事にね。やさしくね。

2, 「角を矯めて牛を殺す」という言葉があります。おおらかにね！人を大事にね！仲良しでね！

3, 「善人は、なぜ 周りの人を不幸にするのか」曾野綾子の書です。いいことをやっていると考えていることが、それがいいとは限らないと言うのです。沢山の事例が載っていました。

4, ボラレンが難渋している今だからこそ、会員の皆さまに助けを求める勇気を持ちましょう

「ぼく モグラ キツネ 馬」(チャーリー・マッケンジー著)からの引用(子ども向けの絵本)

・今までに あなたが いったなかで 一番勇敢な言葉は？ 僕がたずねると

馬は答えた “助けて” (※「助けて」と言えるのは勇気のいることなんだ)

・いちばん強かったのはいつ？ 弱さを見せることができたとき

・助けを求めることは あきらめることとは違う。

馬はいった。あきらめないためにそうするんだ。

・やさしさに勝るものはない。馬がいった。すべてのうえに 静かに存在している。

・一番の思い違いは、モグラはいう。完璧じゃないといけないと思うことだ。

5, 「おおらかに」、「仲良く」、「ドンマイドンマイ」でボラレンは活動の灯を継いできました。山で道に迷ったら引き返せ。ボラレン活動の原点回帰は、「おおらかに」、「仲良く」、「ドンマイドンマイ」です。ボラレンの灯を継いでいきましょう。



# 2023(令和5)年度事業計画(案)

月	行事名	実施日時	下見等	集合場所	摘要	担当等
4	会計監査	7日(金) 13:30～15:30		エルプラザ2F 会議コーナー		事務局
	第4回役員会	8日(土) 13:00～15:30		開拓の村会議室		事務局
	令和5年度 研修会 (第38回)定期総会	15日(土) 13:00～17:00		かでの2・7 1070会議室		研修部 事務局
	春の花を見つけよう	20日(木) 9:50～11:30	19日(水)9:45～ 話:	自然ふれあい交流館 エゾユズリハコース	共催	担当:
	セイヨウオオマルハナバチ防除	29日(土) 10:00～12:00		開拓の村入口のエゾムラサキツツジ開花状況に応じ、日程調整有り		担当:富山
5	春のありがとう観察会	13日(土) 9:50～11:30	12日(金)9:45～ 話:	自然ふれあい交流館 桂コース	共催	担当:
	第1回役員会	13日(土) 13:00～14:30		自然ふれあい交流館		事務局
	恵庭公園観察会	21日(日) 10:00～12:00	20日(土)	恵庭公園中央駐車場	主催	担当:小林
6	「エゾマツ」145号発行(夏期号)	2日(金) 13:00～	原稿5/12日途で	☆奮ってご投稿下さい。		編集部
	森の新緑観察会	8日(木) 9:50～11:30	7日(水)9:45～ 話:	自然ふれあい交流館 大沢コース	共催	担当:
	前田森林公園自然観察会	11日(日) 10:00～12:00	10日(土)	前田森林公園新川駐車場	主催	担当:原田
	苫小牧緑ヶ丘公園観察会	18日(日) 10:00～12:00		金太郎の池駐車場	主催	担当:谷口
	オオハongoソウ防除	22日(木) 10:00～12:00		自然ふれあい交流館	主催・協働活動	事務局
	北海道ボランティア・レンジャー 育成研修会	24日(土)～25日 (日)		自然ふれあい交流館	[共催]	事務局
	三角山登山観察会	30日(金) 9:00～12:00	28(水)9:00～	緑花会前登山口(山の手入口)	主催	担当:
7	西岡水源地自然観察会	8日(土) 10:00～12:00	7日(金)	西岡公園管理事務所前	主催	担当:
8	レベルアップ研修会	6日(日) 10:00～12:00		野幌森林公園・自然ふれあい交流館		研修部
	第2回役員会	6日(日) 13:00～15:00		自然ふれあい交流館		事務局
	夏の森の観察会	10日(木) 9:50～11:30	9日(水)9:45～ 話:	自然ふれあい交流館 桂コース	共催	担当:
	苫小牧緑ヶ丘公園観察会	20日(日) 10:00～12:00		金太郎の池駐車場	主催	担当:谷口
9	秋の花でにぎわう森を歩こう	9日(土) 9:50～11:30	8日(金)9:45～ 話:	自然ふれあい交流館 エゾユズリハコース	共催	担当:
	「エゾマツ」146号発行(秋季号)	8日(金) 13:00～17:00	原稿8/18日途で	☆奮ってご投稿下さい。		編集部
	きのこ研修会(研修部)	20日(水) 10:00～12:00		地下鉄真駒内駅前集合		研修部 担当:松原
10	秋の森の観察会	5日(木) 9:50～11:30	4日(水):9:45～ 話:	自然ふれあい交流館 桂コース	共催	担当:
	晩秋の森観察会	15日(日) 10:00～12:00	14日(土) 10:00～	野幌森林公園 大沢口駐車場	主催	担当:
11	秋のありがとう観察会	4日(土) 9:50～11:30	3日(金)9:45～ 話:	自然ふれあい交流館 ふれあいコース	共催	担当:
	来年度事業計画会議	4日(土) 13:00～15:30	観察会終了後	自然ふれあい交流館		事務局
12	「エゾマツ」147号発行(冬季号)	8日(金) 13:00～	原稿11/17日途で	☆奮ってご投稿下さい。		編集部
2024 1	円山登山観察会	7日(日) 10:00～12:30	6日(土)	円山八十八か所登山口	主催	担当:
	第3回役員会	13日(土) 13:30～15:30		エルプラザ2F 会議コーナー		事務局
3	「エゾマツ」148号発行(春季号)	8日(金) 13:00～17:00	原稿2/16日途で	☆奮ってご投稿下さい。		編集部
	北海道ボランティア・レンジャー 育成研修会	9日(土)～10日 (日)		自然ふれあい交流館	[共催]	事務局
	森の中で春をさがそう	21日(木) 9:50～11:30	20日(水)9:45～ 話:	自然ふれあい交流館 エゾユズリハコース	共催	担当:
4	会計監査	5日(金) 13:30～		エルプラザ2F 会議コーナー		事務局
	第4回役員会	6日(土) 13:00～15:30		エルプラザ2F 会議コーナー		事務局
	令和6年度 研修会 (第39回)定期総会	13日(土) 13:00～17:00		かでの2・7 会議室		研修部 事務局



## 2023（令和5）年度「自然観察会」等のご案内 2023.2.28現在

北海道ボランティア・レンジャー協議会／一般配布用（予定稿）

☆新型コロナウイルス感染症の状況等により、中止の場合があることを、ご了承下さい。



◆ ボラレン主催の「自然観察会」・・・事前申込は不要です。当日、直接会場へ。

ボラレンQRコード

月	日(曜)	自然観察会	集合場所	開催時間	交通機関／おすすめポイントなど
5	21(日)	恵庭公園自然観察会	恵庭市 恵庭公園 中央駐車場	10:00-12:00	J R恵庭駅西口から恵庭駅通りを1.4kmほど南西へ、徒歩約18分（恵庭南高校近し）。／伏流水の清流ユカンボシ川に育つ緑鮮やかなクレソンをはじめ、季節の花々との出会に感動が..。
6	11(日)	前田森林公園自然観察会	札幌市手稲区 前田森林公園 新川駐車場	10:00-12:00	地下鉄南北線北24条バスターミナル、中央バス北72前田森林公園、徒歩1分。J R手稲駅北口、JRバス循環手48・手稲駅北口行、大学通西、徒歩約10分。／造成・植栽の樹木等。全長600mの運河とポプラ並木に藤棚。様々な樹種が織りなす樹冠や花々も楽しみ。
	18(日)	苫小牧緑ヶ丘公園自然観察会	苫小牧市 緑ヶ丘公園 金太郎の森駐車場	10:00-12:00	J R苫小牧駅、駅北口から2.5*、徒歩約30分。道南バス03鉄北北口線総合運動公園行き、徒歩約15分。／金太郎の池周辺の植生をじっくり観察します。野鳥との出会いや昆虫類も楽しみ。
	30(金)	三角山登山観察会	札幌市中央区 「札幌緑花会」前山の手入口登山口	9:00-12:00	地下鉄東西線西28丁目駅、J Rバス②③④循環山手線、山の手4条11丁目、徒歩3分。／野幌森林公園では希？な、ウリノキの花やツノハシバミなどが見られるか。大倉山ジャンプ台も間近に。
7	8(土)	西岡水源地自然観察会	札幌市南区、西岡公園管理事務所前	10:00-12:00	地下鉄南北線澄川駅、中央バス西岡循環線澄73、西岡水源地。／湿地の木道から水生植物や運が良ければハリオアマトツバメも。
8	20(日)	苫小牧緑ヶ丘公園自然観察会	苫小牧市 緑ヶ丘公園 金太郎の森駐車場	10:00-12:00	J R苫小牧駅、駅北口から徒歩2.5*、約30分。道南バス03鉄北北口線総合運動公園行き、徒歩約15分。／金太郎の池周辺の自然観察をお楽しみください。
10	15(日)	晩秋の森観察会	野幌森林公園 大沢口駐車場	10:00-12:00	新札幌駅バスターミナル、夕鉄バス文京台線、大沢公園入口、徒歩7分。J Rバス循環新82・循環新83、文京台線、文京台南町、徒歩10分。／深まり行く野幌の森を五感で存分に堪能しましょう。
1	7(日)	円山登山観察会	札幌市中央区円山八十八か所登山口	10:00-12:30	地下鉄東西線円山公園駅、徒歩10分。／新雪を踏みしめ。冬芽と葉痕、カラ類、山頂からの眺望も抜群。

\*ボラレン主催の自然観察会は、事前申込なしで、参加できます。（事務局：富山／携帯090-4871-1626）

なお、発熱や、体調の悪い方は、参加できません。＊観察会当日、受付時に保険料として@100円をお願いします。

\*コロナ対策の観点から「観察会参加者カード」記載のため、筆記具のご持参をお勧めします。

双眼鏡やルーペなどの観察用具があれば、どうぞご持参下さい。また、昼食は、観察会終了後、各自でお摂りいただきます。

\*気象警報の発令など荒天等で中止する場合があります。ボラレンのホームページでお確かめ下さい。<http://voluran.com>

\*交通機関の情報は、作成時のものですので、恐れ入りますが最寄りの営業所等に、再度、ご自身でご確認下さい。

◆ 自然ふれあい交流館とボラレンの共催「自然観察会」など・・・こちらは、事前申込が必要です → 自然ふれあい交流館へ

月	日(曜)	自然観察会	開催時間定員	摘 要
4	20(木)	春の花をみつけよう	定員各回50人	集合場所 野幌森林公園「自然ふれあい交流館」 交通機関 ・新札幌駅バスターミナルよりバス利用で約20分、夕鉄バス文京通西行、大沢公園入口、徒歩7分 ・J Rバス文京台循環線、文京台南町、徒歩10分 ・J R大塚駅南口より、徒歩約30分  ※共催「自然観察会」、「育成研修会」のお申し込み、問合せ先 → 自然ふれあい交流館 ☎011-386-5832 ホームページ <a href="https://www.kaitaku.or.jp/nfpvc.htm">https://www.kaitaku.or.jp/nfpvc.htm</a>  <div>『北海道ボランティア・レンジャー育成研修会』のご案内              第1回 6月24日(土)～25日(日) 詳しくは、HPでー。              第2回 3月9日(土)～10日(日) 知事の「受講証書」が！</div>
5	13(土)	春のありがとう観察会		
6	8(木)	森の新緑観察会		
8	10(木)	夏の森の観察会		
9	9(土)	秋の花でにぎわう森を歩こう		
10	5(木)	秋の森の観察会		
11	4(土)	秋のありがとう観察会		
3	21(木)	森の中で春をさがそう		

◆ 協働事業 ボラレンと石狩森林管理局、北海道博物館、自然ふれあい交流館などとの”協働”による取り組みです。

月	日(曜)	行事名	集合場所	実施時間	
6	22(木)	オオハングンソウ防除	野幌森林公園、自然ふれあい交流館	10:00-12:00	＊特定外来生物のオオハングンソウを抜き取り、焼却処分します。 ＊生い茂る夏草に分け入った防除作業です。長靴、長袖、帽子、軍手のほか、可能な方は鎌や剪定ハサミなどをご持参下さい。 マダニやウルシなども要注意です。肌の露出は避けましょう。





## 2023(令和5)年度 自然観察会及び行事のご案内(案)

ボラレンQRコード

ボラレンHPアドレス <http://voluran.com>



### ○5月21日(日) 10:00-12:00 「恵庭公園自然観察会」 恵庭公園・中央駐車場 集合

- ・交通機関：JR恵庭駅西口、恵庭駅通りを南西へ1.4Km、徒歩約18分(恵庭南高校隣接)
- \*スポーツと水と緑の都市型公園。ユカボンシ川の源流、広葉樹、初夏の草花、野鳥たちも。

### ○6月11日(日) 10:00-12:00 「前田森林公園自然観察会」 前田森林公園・新川駐車場 集合

- ・交通機関：(1)地下鉄南北線、北24条バスターミナル、中央バス：北72「前田森林公園行」、前田森林公園下車、徒歩至近。(2)JR手稲駅北口、JRバス：循環手48「科学大学行」、前田中央通西下車、徒歩10分。
- \*昭和57年から新たに「森林」を造成した公園。園地の半分が森で一年を通じ樹木に親しめます。

### ○6月18日(日) 10:00-12:00 「苫小牧・緑ヶ丘公園自然観察会」 金太郎の池駐車場 集合

- ・交通機関：(1)JR苫小牧駅北口、北へ約2.5Km、徒歩約30分。
- (2)〃、道南バス03番「鉄北北口線」、総合運動公園下車、徒歩約10分。
- \*自然に囲まれた緑ヶ丘公園の大きな金太郎の池。マガモの姿や四季折々の自然が楽しめます。

### ◆6月22日(木) 10:00-12:00 「オオハングンソウ防除」野幌森林公園 自然ふれあい交流館 集合

- ・交通機関：(1)JR大塚駅南口、南へ約2.5Km、徒歩約30分。
- (2)新札幌バスターミナル、JRバス：「文京台循環線」、文京台南町下車、徒歩10分。
- (3)夕鉄バス：「文京通西行」、大沢公園入口下車、徒歩7分。
- \*特定外来生物「オオハングンソウ」を抜き、地上部を切り落として、根を焼却処分へ。
- ※服装等：帽子・長靴・長袖・長ズボン、軍手。用意できる方は、鎌や剪定ばさみなども重宝。

### ○6月30日(金) 9:00-12:00 「三角山登山観察会」 山の手(緑化会前)登山口 集合

- ・交通機関：(1)地下鉄東西線・西28丁目駅：JRバス「②②②循環山の手線」、山の手4条11丁目下車、徒歩3分。
- \*ウリノキ、アクシバ、タツナミソウ、エゾスズランなどの花々、初夏の山野草が楽しめます。

### ○7月8日(土) 10:00-12:00 「西岡水源地自然観察会」 西岡公園管理事務所前 集合

- ・交通機関：地下鉄南北線・澄川駅、中央バス：西岡環状線「澄73」か「澄74」、西岡水源地池下車、徒歩1分。
- \*月寒川の上流に形成された湿原。色々な水環境に適応した動植物を園路・木道で巡ります。

### ○8月20日(日) 10:00-12:00 「苫小牧・緑ヶ丘公園自然観察会」 金太郎の池駐車場 集合

- ・交通機関などは、6月18日の欄をご参照ください。

### ○10月15日(日) 10:00-12:00 「晩秋の森観察会」 野幌森林公園 大沢口(駐車場) 集合

- ・交通機関は、6月22日のオオハングンソウ防除の欄をご参照ください。
- \*深まりゆく「野幌の森」の鮮やかな景色、森の匂いなどを五感で存分に満喫しましょう。

### ○2024年1月7日(日) 10:00-12:30 「円山登山観察会」 円山 八十八ヶ所登山口 集合

- ・交通機関：地下鉄東西線・円山公園駅下車、徒歩10分。※簡易アイゼン(貸出用若干あり)
- \*初春の凜とした冷気のもと、防寒対策等の装備で低登山(225m)。山頂からの眺めも格別です。

☆事前申込は不要。参加費も無料です。○印自然観察会は、「保険料」として@100円を徴収します。  
☆発熱や体調不良の場合は、参加できません。また、各回とも、昼食の時間はとりません。  
☆万一のコロナや保険対応のため「参加者カード」(氏名・連絡先電話番号)を記載いただきます。  
☆コロナや荒天等で中止の場合があります。当会のホームページにて、実施をご確認下さい。

－主催；北海道ボランティア・レンジャー協議会－＜事務局：富山康夫 携帯 090-4871-1626＞





# 2023年小樽支部自然観察会予定表

北海道ボランティア・レンジャー協議会

No	月/日(曜日)	行き先	行程	集合場所・時間	
1	4/2(日)	塩谷丸山	東尾根～山頂往復	小樽自然の村公社共催 からまつ公園事務所(8時30分)	
2	4/29(土)	オタモイ～赤岩山	おたもい交番～ ノイシュロスホテル	小樽自然の村公社共催 小樽市総合博物館共催 おたもい交番前 9時	
3	5/21(日)	朝里天狗岳	登山口～山頂 (往復)	朝里湯の花(8時30分)	
4	7/1(土)	旭展望台周辺	《半日コース》 商大 ～ 展望台	中央バス商大終点前(9時)	
5	9/23(土)	手宮公園周辺	市内	総合博物館本館前 (9時)	
6	10/9(月)	天狗山～自然の村 (納 会)	周辺林道	小樽自然の村公社共催 中央バス天狗山ロープウェイ終点 (9時)	
7	2024 2/11(日)	からまつ公園周辺	《半日コース》 カンジキ	小樽自然の村公社共催 からまつ公園事務所(9時)	
8	3/10(日)	西赤岩山周辺 352mピーク	《半日コース》 カンジキ	おたもい交番前 9時	

## 参考

参加料は、500円、交通費は各自負担願います。地方観察会は、別途料金になります。  
自家用車の方はその旨連絡願います。(駐車場・乗り合せの可否等あり)  
申込/問合わせ、携帯 080-5593-3533(北嶋) 090-3892-8775(工藤)

寄稿 「円山登山観察会」に初めて参加して 令和5年1月8日(日)  
札幌市手稲区 北嶋 ゆかり

ウォッチングガイドでたまたま知った1月8日の「円山登山観察会」に初めて参加しました。

小学校の登山遠足以来、本当に久しぶりに円山に登りました。身近な動植物への興味はありますが、知識のほとんどない私ですが、分かりやすく教えていただき、違和感なく初参加することができました。ありがとうございました。

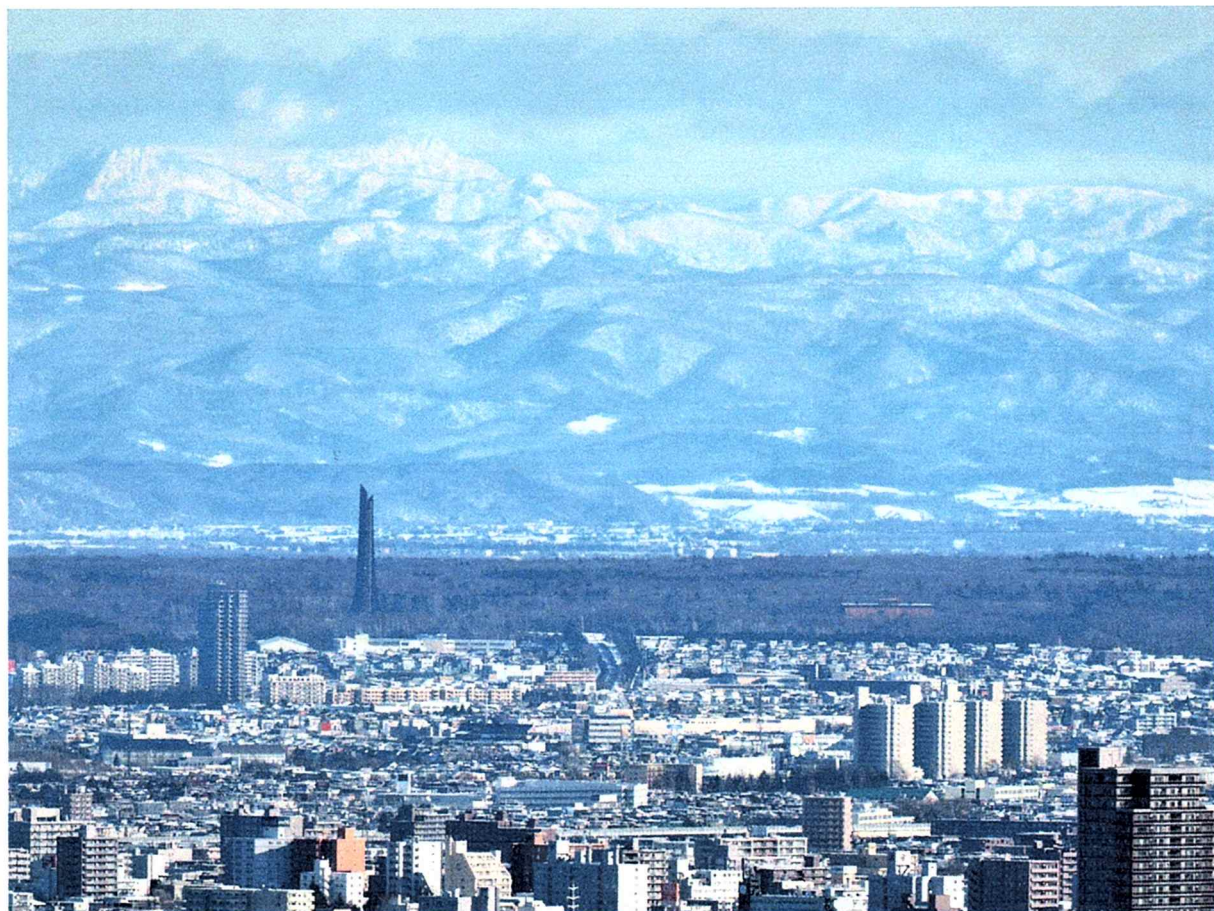
コースタイムや標高にこだわる登り方もありますが（特に若い頃など）、観察しながら、ゆっくり一歩ずつ登る山の楽しみ方、を今回教わったように思いました。

当日は快晴で、寒さで澄んだ空気の中、山頂からの眺めもすばらしく、もうすぐ解体される百年記念塔も完成間近いボールパークも両方よく見えました。

沢山のことを教えていただきましたが、一度で憶えることはできないので、また登山観察会がありましたら、復習のためにも参加したいです。



皆様にはたいへん御世話になりました。御陰様で、楽しく有意義な日になりました。ありがとうございました。



写真上；完成間近い「ボールパーク」 写真下；解体工事が始まった「北海道百年記念塔」

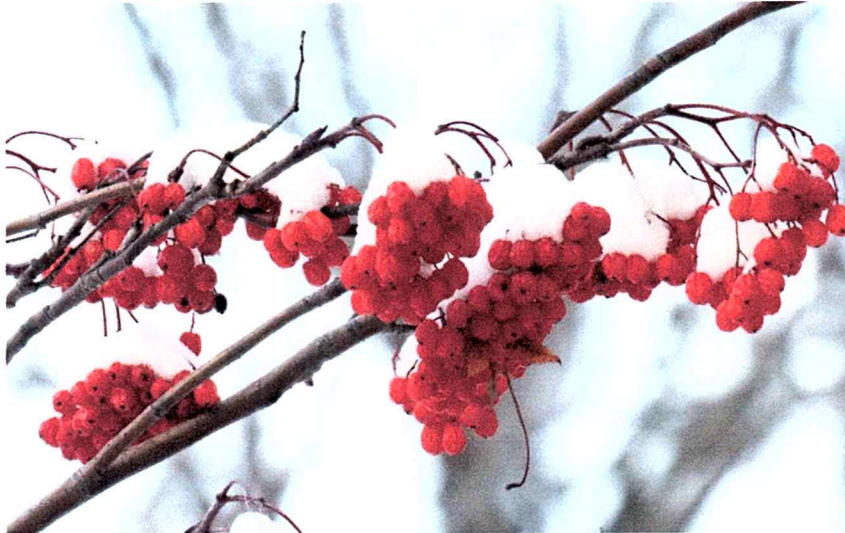


「いいいじゅうー!!」というテレビ番組(NHK移住ドキュメント)が人気だ。

考えてみれば、私自身も横浜から北海道に来たということは、そうした移住者の一人かも知れない。もともと、私の場合は仕事で月に数回、東京から北海道に来たことが縁で、その後リタイヤしてから本格的に、苫小牧の地に移住したことになるかと思う。

もちろん、あえて北の地を選んだのには、それなりの理由がある。

そのキッカケが” ななかまど” の木、なのである。



あの赤い実を付ける、そして、その上に雪の帽子を被る姿を、私は若い頃、カナダのバンクーバーの街でよく見た。スタンレーパークの散策のおり、あの赤い実は特に印象に残っている。現地で名前を聞いたら、マウンテン・アッシュだといった。英名らしい。

そして、リタイヤしてから二度、北欧フィンランドを訪れた時、首都ヘルシンキの街中、特に音楽ホール「フィンランディア」の前の大通りには、びっしりとななかまどの赤い実の木が並んでいた。そこで名前を尋ねたら「ピヒラヤ」と告げられた。

音楽好きの私は、シベリウスがフィンランドの第二の国歌といわれる交響詩『フィンランディア』を作曲したことは知っていた。

そのシベリウスが、小曲『ピヒラヤ（ななかまど）の花の咲くとき』という曲をつくっていたことをヘルシンキで知った。

苫小牧や旭川など、道内で数多くの街の木として親しまれている『ななかまど』。

10年ほど前だったが、ロシアには、あの赤い果実で作ったジャムがあると聞いたので、興味をもってレシピを取り寄せ、作ってみた。そのコツは、作ってから何年間も寝かせることだという。暑くなり寒くなり、それを何回も繰り返すことで、少しずつ味がマイルドになるという。実際、私は5年ばかり寝かせてから、パンにつけて食べてみた。ほんのちょびり付けたジャムだったが、ちょっとピリリとした。食べられなくはなかった。

かようにして、私は” ななかまど” との思い出は、結構尽きないでいる。

同じ北の地に住み、同じ自然の中にいて、おなじ時期になると出会う” ななかまど” の赤い実を見ると、自分の人生にオーバーラップしているのか、嬉しくなる。



# 登らず・見ず・食わず

札幌市清田区 堀川 勉

二十数年前、日高の浦河町に住んだことがあり、「花の山」として人気の隣町・様似町のアポイ岳に何度か行きました。高山植物多彩な中で、特に印象深かったのが低木のヒロハヘビノボラズです。ちょうど開花の時期で、黄色い花を総状に多数付け、葉の縁には刺状の鋸歯がびっしり。漢字交じりでは「広葉蛇登らず」と書きます。

見て触って、名前の由来を直ぐ実感させるのが、太くて長い枝上の三叉の刺＝上の写真＝。鋭い刺と鋸歯の「重武装」では、さすがの蛇も木に登れまいという訳です。メギ科メギ属の他の仲間比べても、いかにも近寄りがたい物腰です。

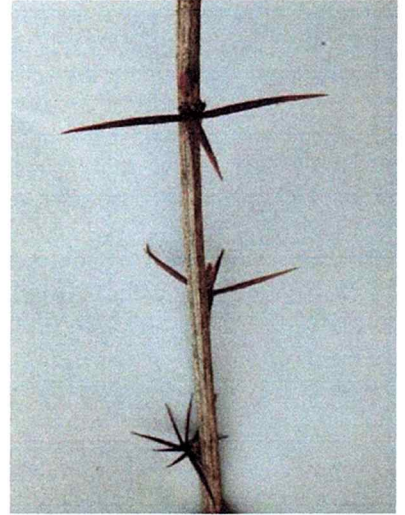
一度聞いたら名前は忘れません。蛇さえ登らないというインパクトに加え、動詞の否定形「登らず」で終わっている特異さが、人の心をつかんで離しません。標準和名で、語尾が動詞否定形の植物、他に何かあるのでしょうか？

別名や地方名になると、様相は変わります。例えば、道内に自生しない妖艶な花ヒガンバナ、栗田子郎著「ヒガンバナの博物誌」によると、全国に1千余りの地方名があり、イタドリ（スカンポ）を抜き断トツの1位だそうです。数ある地方名の一つがハミズハナミズ（葉見ず花見ず）。開花時＝下の写真＝は花茎に葉がなく、花後に線形の葉が出て春まで残ります。だから花は葉を見ることなく、逆に葉は花を見ることがないという意味だそうです。

野幌森林公園などで見られるガマズミ科のカンボクは、ふつう3裂する葉と白い装飾花が目印。赤い球形の核果は、見た目おいしそうですが、小鳥には不人気らしく手つかずに遅くまで残っています。だから付いた地方名がトリハマズ（鳥食まず）で、アズキナシも同じくトリハマズと呼ぶ地域があるそうです。有毒か臭いが強いアセビ、センニンソウ、ドクダミ、ヘクソカズラには、ともにウマクワズ（馬食わず）の地方名があります。

地方名に結構ある動詞否定形の名前はなぜ淘汰され、ヒロハヘビノボラズや同属のヘビノボラズだけが標準和名として定着したのでしょうか？ 語尾が否定形というのは何かしら不安感を誘いますが、2種には「なるほど」と納得させるアピール力があり、他に代え難かったのかもしれませんが、しかし、庶民生活との近さを感じさせる名前が消えていくのは残念です。

ヒロハヘビノボラズは札幌・羊ヶ丘の森林総合研究所樹木園に植栽されていて、よく見に通いました。福井滞在中の今はおいそれと行けません。できれば花期に再訪し、花も刺もじっくり愛でたいと思いを募らせています。





## 『昆虫はどうやって植物に「虫こぶ」をつくらせるのか?』

日本植物学会一般向け講演会 オンライン開催より

札幌市南区 宮津京子

2022年12月11日にYouTube上で開催された3つの講演内容が、とても興味深く面白いと思いました。ご覧になっていた方もいらっしゃるかとも思いましたが、私のつたないメモ記録からですが、内容をお知らせしたいと思います。

【「植物が好き!」さまざまな生き物と共生する植物の研究最前線 植物科学が拓く新しい世界 2022】と表題のついた今回の日本植物学会の一般向け講演会は、どの研究内容も、分子生物学的根拠に基づいて様々な実験をされた過程の説明と、その結果や現状の研究段階の報告でしたが、ここでは、私の理解できた範囲での表現となりますことを、ご了承ください。

◎平野明子（京都府立大学大学院 生命環境科学研究科）

### 「昆虫はどうやって植物に「虫こぶ」をつくらせるのか?」

虫こぶとは、昆虫と植物の共生の一つである。昆虫にとって必要な時期（産卵や幼虫の成長期）だけ、虫こぶ作成のキー分子となる「CAP ペプチド」と呼ばれるタンパク質が体内で作られる。昆虫からCAP ペプチドを注入された植物の細胞は、免疫力を制御され、脱分化作用を受けて、幹細胞（自分と同じ細胞になる自己複製能力と別の種類の細胞に分化する能力を持ち際限なく増殖できる細胞）になる。その後、花器官を形成する遺伝子が活性化して、再分化し増殖を始め、果実様構造の虫こぶが作られる。植物の花器官形成に係わる遺伝子は多数存在していて、虫こぶ形成には、がくと雌しべに関係する遺伝子が活性化しており、活性化した遺伝子の数が多いほど複雑な形の虫こぶになり、少ないほど単純な形になることが分かっている。また逆に、虫こぶには使われない遺伝子が存在することも確認されている。虫こぶは、外側が硬く、内部細胞はカルス（分化していない植物細胞の塊）化し、道管が活性化した状態となる。

実際に昆虫の作り出すタンパク質が植物にどのような影響を及ぼすのかの検証実験には、シロイヌナズナが使われています。ゲノム解析(遺伝情報の解読)が進んでいるため、世界中で実験に使われている植物で、虫こぶが出来ない植物だからとのこと。実験で虫こぶ状の物が出来たことも話されていました。

現在では、昆虫が植物に虫こぶを作らせるために作り出すCAP ペプチドを応用した農薬【カルス促進剤、形質転換促進剤、発芽促進剤、生物賦活剤（病害抵抗性・乾燥耐性・凍結耐性・鮮度保持）】への開発に研究が進んでいるそうです。



写真：ナラメリンゴフシ

講演後、「共生として、虫こぶは昆虫側からの利点だが、植物側に利点があるのか?」との質問には、「すべての植物というわけではないが、病害抵抗性が高まったり、組織が硬くなったり、生命活動が活発になるなどの違いがみられている。」との返答がありました。

### 「共生窒素固定のためのマメ科植物の巧妙な仕掛け」

マメ科植物の根にはたくさんの根粒がついているが、その根粒を切ってみると中に、人間のヘモグロビンと起源が同じとされる、赤い色をしたレグヘモグロビンが詰まっている。それは、根粒菌がニトロゲナーゼという、酸素に弱い酵素を使って窒素固定を行うため、根粒内の環境を整えるために存在している。マメ科植物は NCR ペプチドというタンパク質で、地中に存在する根粒菌を根に招き入れ、細胞内共生関係を作る。（注：NCR ペプチドには沢山の種類があり、さらにこれ以外のタンパク質で共生関係を作っているマメ科植物も確認されている）

根粒菌はマメ科植物から、窒素固定に必要なエネルギーや、生命維持に必要なタンパク質を供給され、生存環境も快適に整えてもらって、窒素固定のみに専念する共生関係に変化させられる。では、なぜ、マメ科植物だけが根粒菌と共生できているのか？

ゲノム解析が進んだことで、わかってきたことは、他の植物は進化の途中で、共生に必要な遺伝子の一部を失っているようで、もし、共生できない植物が失ってしまった遺伝子を明らかにして、マメ科植物から導入することができれば、マメ科植物でなくても、根粒菌と共生できるかもしれない。そんな試みが進行しているそうです。

### 「ミクロで起きている大進化！シアノバクテリアと微生物の細胞内共生」

大学の近くの池の水で見つけた  $40\mu\text{m}$  ほどの単細胞生物、ポーリネラ クロマトフォラという名前の、透明な殻をもつアメーバ状生物を調べていた。細胞内にある、青緑色のシアノバクテリアに似た構造を解析したところ、植物とは全く別の起源をもつシアノバクテリアであることがわかり、「シアネレ」と呼ばれて、世界的にも有名になっている。現在知られている、全植物の進化をたどっていくと、植物の起源は 15 億年前に、細胞内に葉緑体が一次共生を起こしたところから始まったとされている。シアネレは植物の葉緑体とは全く別の起源をもつ細胞内小器官であることが、ゲノム解析の結果証明され、これまでの常識を覆す存在として注目され、葉緑体進化の理解にヒントを与えてくれる可能性を期待されている。

以上、ひとつの講演は 30 分ほどでしたが、分かりやすい解説で楽しめました。ゲノム解析の技術が進化して、疑問の解決速度が速くなっているんだなあ〜と、時代を感じました。

この、オンライン開催された一般向け講演会を、5 分弱にまとめたダイジェスト版が、日本植物学会 BSJ の HP 内、一般向け講演会のページに掲載されているので、是非ご覧ください。

[日本植物学会 \(bsj.or.jp\)](http://bsj.or.jp) 一般向け講演会 < 一般向け情報 | 日本植物学会 (bsj.or.jp)

また、日本植物学会第 87 回大会が、2023 年 9 月 7 日（木）～9 日（土）北海道大学札幌キャンパスにて開催予定だそうです。一般向け講演会もありそうなので、詳細が発表される頃、学会の HP をチェックしてみてください。[北海道植物学会 \(hokudai.ac.jp\)](http://hokudai.ac.jp)

参考文献：Wikipedia



オホーツク支部 清里町 千葉 亮

2022年春、ボラレン会員になり長年の懸案だった企画がようやく実現できた！

15年ほど前に、オホーツク支部に再度加盟したころから、支部の先輩達の活動を見て、将来必ずこの清里町の地で、子供達を対象に自然観察会を開催したいとずっと暖めていた。その計画が、ようやく今春スタートを切ることが出来ました。

観察会は、支部総会にも提案し全会員の了承を得て、支部事業として実施しました。主催は清里町教育委員会・社会教育グループ。北海道ボランティアレンジャー協議会・オホーツク支部は共催組織として開催されました。以前より、清里町社会教育委員を拝命して“学ぶこと・知ることの楽しさ”の場を提供できればと考え、支部の皆さんの協力を得て実施することが出来たのです。

とは言え、オホーツク支部も寄る年波には勝てず、高齢化や長距離運転を考慮させていただき、会員全員の参加とはせず、和泉支部長・法師人事務局長と私の3名で講師を勤めました。(総勢6名の小さな所帯ですが……。)

主たる開催場所は、斜里川の元河川敷だった土地を生かした『緑が丘公園』。6月を皮切りに4回の開催としました。公園は約12ヘクタール程の広さがあり、2/3は18ホールのパークゴルフ場も兼ねた町民公園で、遊具や焼き肉の出来る東屋と2か所の水飲み場と流し台、清潔且つ立派な水洗トイレも2棟備えています。

参集範囲は細かく限定せず、「保護者と子供と一緒に参加できて、自然に興味がある方」としました。結果、10家族が参加し、大人14人子供が19人の計33名での開催となりました。8月の開催日が降雨で中止になり、実績は3回の開催にとどまりましたが、延べ74名の方に参加をいただきました。

初回は6月12日(日)。開催当日まで、参加者の数や年齢等が判らず、下見の段階でも保護者の方にも楽しめるような内容中心で組み立てました。ところが参加した子どもたちの年齢幅があり、未就学児童から小学校4年生までで、解説する我々としても解説をする内容は事前に設定したものの、元河川敷とは思えない程の多様な植物があり、人の手が余り入っていない森も隣接しています。余り専門的な解説に偏ると子供が飽きる為、子どもたちにも喜んでもらえるように、その場その場の手探りでした。ただ、この森エリアはマダニが居る為、帰宅したら着替えをして点検して頂くようお願いし1回目は終了しました。



第1回目観察会風景 千葉が解説中



和泉会長の巧妙な解説に釘付けです！





笹の芽の位置でその土地の積雪深が解ると解説



法師人事務局長は、マダムキラー？です!!

7月17日(日)

2回目は、予想された程の高温とはならず、また今年は昨年と違い、適度な降雨もあって、農作物や森の植物の生育には適した天候でした。初夏となり山野草の花の開花数も少なくなりましたが、エゾハルゼミが鳴き、ヤマグワの実も熟し始め、実食未経験の方にはヤマグワの試食を体験してもらい、非常に好評を得ました。また顔を出し始めたミツバ等食べられる山菜などの話題も提供できました。

また、野鳥も多く、夏鳥などは丁度巣立ちをした子育ての最中で、活発にえさを探し回る姿も見られ、主催者が用意した簡易双眼鏡で、子どもたちが一生懸命に小鳥を探すシーンも散見されました。

最後はロープを使ったネイチャーゲームも行い、目隠ししてロープを頼りに木肌を触りながら歩くと、いつも以上に木々の樹皮の違いを知り、五感を使って楽しむことで、自然観察も楽しさが倍増すること感じて貰えました。

後日、参加者から聞いた話ですが、観察会の翌週末、「親子で再度公園に行って、ヤマグワの実（マルベリー）を沢山収穫しジャムを作りましたヨ〜!!」という話で、早速得た知識を生かしてもらい、自然の恵みをいただける貴重な公園であること知って貰いました。

8月20日(土)

3回目の開催は、残念ながら、夜半からの降雨が響き、開催時間には雨が上がっていたものの、フィールドが濡れて小さな児童の事を考慮し中止としました。下見段階では、ここもご多分に漏れず山野草の花の数は極端に少なく、コエゾゼミの羽化の数が今年は凄かったのも、子供達には蝉の話の沢山しようと打ち合わせていました。チョット残念!!と思いつつも、反面話ネタが少なく良かったと思う自分も正直居ました。(笑)

町内の馴染みある場所で、季節の移ろいを感じてもらおうと数回に分けて企画したものの、参加児童の年齢幅が大きかった事から、主催者には1回目を終了した段階で、「緑が丘公園のスケールや全体像が見えたら、最後は我が町のシンボルであり、百名山で道立自然公園でも有る、斜里岳の5合目に整備されている『げんきの森』を、最終回に紹介を兼ねて散策させてはどうか。」と言う案を提案していました。

9月11日(日) 【最終回】

上記の提案を採用してもらい最終回に実現できた『げんきの森』散策は、斜里岳5合目にある山小屋『清岳荘』が活動の中心となります。使用には協力金が必要とはなりますが、山小屋には清潔な簡易水

洗トイレが整備されており、万が一の時でも安心して散策できます。

また、山小屋が管理する駐車場（ここは有料）は40台ほどのスペースしか無いため、有効活用する為に個人のマイカーによる集合を避け、本峰登山者に迷惑を掛けない様に、町の「活動バス」（町民活動の為、無償で町が提供してくれる営業バス）の出動をお願いしました。

『げんきの森』散策路は、一周500mほどの林間コースで、観光協会傘下の東オホーツクガイド協会が企画立案し、網走南部森林管理署や町の協力・理解の下、道立公園の利活用促進の意味を踏まえ設置したもので、普段は山小屋の管理人が観光協会から委託を受け、管理・整備等を行っています。

斜里岳5合目は、標高約750mの亜高山帯で、ウラジロタデや樹齢50年越えのダケカンパに100年越えのエゾマツにミズナラ等、迫力ある樹木が林立する立派な針広混交林で、特にカエデ類の種類が多く、現在5種類を確認している。存在の可能性があるアカイタヤは、今の処同定できていないが、発見すると6種類となる。また散策路にはシダ類も多く、希少種ヒメスギランやヒカゲノカズラなども道すがら見ることが出来る。何より珍しいのは、100年の植物学会の論争を経て、数年前に存在が認められた“カムチャツカナニワズ”が登山道脇のすぐのところに赤い実をつけ、ひっそりと存在しているところ。さほど特徴が無く何処にでもありそうな木本だが、実は貴重且ついわくつきの植物だと経緯を解説しました。また、斜里岳は25万～28万年前に出来た古い山なので、知床連山とは高山植物の植生にも違いがあり、更に、「シャリコザクラ」や「シャリスグ」と言う、斜里岳の銘を冠とした固有種が存在することも紹介し、是非登山をしてみて欲しいと紹介させてもらいました。

勿論、散策路は熊の生息域であり、単独での散策時には鈴などの音の出る物を身に着ける事を提唱しつつ、熊生息域であるその証拠として、国有林と散策路の境界に目印として打たれたプラスチック製の杭を紹介し、熊が齧った歯形がある処を見て貰いました。何故か、熊はプラスチックの匂いが好きらしく、数十本ある杭のほぼ全てに齧った跡があります。

大人の足で45分ほどの行程も、子供が混じると1時間強の散策となり、予定を若干超過しました。ほぼ全員が初めて来た場所で、登山には自信が無くてもここの散策路は、斜里岳の懐の深さと自然の豊かさと凄さを味わえる処で、喜んでもらえた研修となりました。

斜里岳は言わずと知れた「日本百名山」で「花の百名山」「新花の百名山」でも有名で、町民はもとより、国内外多くの登山愛好家が山頂を目指し訪れている事。しかし、そのことが仇になり、高山植物のブームも相まって盗掘に遭い、沢山の資源を失った過去があることもお話しさせて貰いました。

山裾に生活する者として、風景はもとより飲用水や気候など、大きな恩恵を受けている斜里岳は清里町民には無くてはならない存在です。更に、身近な「緑ヶ丘公園」が自然豊かで植生も豊富な貴重な公園であることを今回少しだけ理解してもらい、足を運ぶ機会が増えたと期待したいと思います。

変わらぬ自然の姿と恩恵を継承するためには、こうした貴重な資源・自然、食物連鎖の理解を広め、共に生きると言う事を意識したライフスタイルが求められます。これらを鑑み、今年も5年に一度開催された「北海道フラワーソン」に、オホーツク支部として常呂町郊外の植生調査に参加しました。

コロナ禍に有って、活動し難い年でしたが、何とか最低限の活動が出来たと思いました。

以上、2022年度のオホーツク支部の活動報告の一端とします。

＜2022.12.20 執筆＞



## 検 討 実 施 報 告

2022年4月のボラレン定期総会で執行部から提案があり総会で設立を承認された「ボラレンのこれから検討委員会」は、6月9日に札幌地域の有志メンバーで行った事前のフリーディスカッションを経て、7月15日に正式に発足し、以後、月1回のペースでZoomによるリモート会議を続けてきました。

このうち7月から9月は、主に会員アンケートの設計や実施、結果分析などについて議論しました。

ボラレン協議会の高齢化と会員減少、ボランティアガイドの担い手不足などの課題が深刻になる中で、▼ボラレン協議会を存続させるか否か、▼存続させるとしたらどのような課題を克服しなければならないかという点について、会員の率直な意見を吸い上げることが主な目的でした。

アンケートの結果は、ボラレンの存続を求める声が圧倒的に多く、そのためには協力を惜しまないという貴重なご意見も数多く頂きました。これを受けて10月以降は、ボラレンの活動を活性化し、新規会員獲得やボランティアガイドの養成、会員どうしの情報共有をどのように進めるべきか、ボラレンの活動を今の時代に合った新しい在り方に変えていくための具体的な対応策が議題となりました。

検討委員会のメンバーの熱心かつ献身的な意見交換により、以下のとおり、今後必要な対策に関する提言を報告書としてまとめることができました。

今後は、これらの提言を実施する2つのチームの活動にボラレンの将来を託したいと思います。

(検討経過)

- 7月15日(金) 第1回会合 自然ふれあい交流館(対面)
- 8月18日(木) 第2回会合 Zoom会議
- 9月3日(土) 第3回会合 Zoom会議
- 10月15日(土) 第4回会合 Zoom会議
- 11月12日(土) 第5回会合 Zoom会議
- 12月3日(土) 第6回会合 Zoom会議
- 1月21日(土) 第7回会合 Zoom会議
- 2月25日(土) 第8回会合 Zoom会議



第1回会合の様子(2022.7.15 於:自然ふれあい交流館)

## (報告書) 北海道ボランティア・レンジャー協議会の今後の運営について

2022.2.25

### 1 今後の運営の基本方針について

前回の定期総会前には、会員の減少と高齢化、役員の後継者不足などを理由に、協議会の解散も視野に入れて検討してはどうかという意見も一部にあると伝えられたが、全会員のアンケート調査では、『事業計画や運営などを一部見直した上で存続させる』という回答が71%と圧倒的に多く、『解散もやむを得ない』という意見は少なかった。検討委では、『自然観察会などの行事の規模・回数を無理に大きくしていくのは会員に負担がかかるため、自然の魅力を伝えながら自らも楽しむというボラレンの原点に戻ることが大事ではないか』という意見が出され、多くの委員の賛同を得た。また、今後の運営にあたっては、『会員どうしの絆をつなぐ「コミュニケーション」と「連携」を大事にしていくこと、その際のキーワードは「未来世代」と「デジタル化」』であることでも意見が一致した。今後は、将来を担う若い世代の参加を促すこと、Zoom会議やメールなどのインターネットを上手く使い役員や会員の負担を減らしていくことが重要となる。

そのためには時代の変化にあわせた柔軟で開かれた透明性ある組織運営を進めていくことが求められる。さらに、道央地方に限らず広く道内各地からも運営に参加する機会のあるフラットな組織を目指すことの必要性も認識した。

## 2 事業計画の見直しと役員・ガイドの負担軽減

運営の見直しについて最も多かったのは、『事業計画の規模を縮小し可能な範囲に』という回答で70%を占めた。検討委でコンセンサスを得た具体策は以下のとおりだった。

- ① 共催観察会は現状を維持し、主催観察会は規模と回数を適正レベルに減らす
- ② 体力的に負担の大きい登山観察会や長距離観察会は順次見直していく（一部実施済み）
- ③ 役員会などの会議をZoomで開けば、移動や時間の負担を軽減できる

なお、事業計画全体の見直しは、個別課題の対策を検討した上で役員会のメンバーとともにさらに検討していく必要がある。

## 3 新たな自然観察会の開発と新会員の加入促進

基本方針で挙げた「未来世代」を意識した運営の見直しは、自然観察会のあり方を柔軟に見直して新規会員の加入のきっかけを作ることにもつながると期待される。具体的には、小・中学生などの子ども世代やその親を対象にした、親子で自然に親しむイベントを企画する。未来世代と接点を持つことで、長期的にボラレンに対する理解や知名度を高めるほか、親である30代40代の中堅世代にもボラレンへの関心を持ってもらい、将来的に新規会員になってくれる可能性のある“ボラレンファン”を増やしていく活動が重要である。

具体的には、以下のような事例が考えられる。（詳しくは、今後検討していく）

- ・自治体や教育委員会、学校とのコラボ、親世代の参加で支援の輪を広げる。
- ・テーマ設定、ゲームやクイズといったアトラクションも入れ、楽しい観察会に。
- ・観察会や育成研修会のPRを自然志向の人の目に触れる場所やサイト、メディアに

このほか、若い世代に訴求力のあるSNSを活用したPR活動や、自然志向の人たちがよく集まる場所（アウトドア店、NPOの活動拠点、大学・専門学校等）への積極的なプロモーション、マスメディアの有効活用なども観察会の参加者増加、および将来の新規会員獲得に向けた鍵となる。

## 4 観察ガイド育成と情報共有戦略

ボラレンのもう一つの課題である観察会ガイドの高齢化の対策として最も有効なのは、新たなガイド役の育成と定着である。この点についてはアンケートでも『ガイド役の経験のない会員向けの実践研修』の実施を求める意見が多かった。しかし、新たな行事として実践研修を追加することは、役員や先輩ガイドの負担を増やしてしまうおそれもあるため、検討委では、現在ある観察会および下見会に実践研修としての機能も持たせる工夫を検討した。具体的には、下見会の時から先輩と初心者がペアになり、先輩が初心者にアドバイスしながら、いわゆるOJT学習を進めていこうという方法である。あらかじめ「この部分はあなたが観察会参加者に説明してね」と担当パートを決めておくことで、初心者が事前に下調べをして本番に臨むことができ、観察会が終わった後で先輩から講評をもらい次に役立てることも可能になる。こうしたコミュニケーションは、新たなガイド役の定着にも役立つ効果が期待できる。また、新規加入者を対象にした「フォロー研修」の企画や、「観察ガイドのためのガイドブック」を作成して初心者の勉強に役立ててもらおう、というアイデアも出された。（個別の具体策は今後の検討課題）

育成と並ぶもう一つの課題は、会員の情報共有、コミュニケーションの強化である。その大きな役割を担っている『エゾマツ』については、道内各地に点在する会員を繋ぐものとして、とりわけ期待が大きい。今の



ところ編集部の負担は許容できる範囲であるという意見をふまえ、検討委としては、現在の年4回の発行回数を維持し、頁数を抑制することで負担が過大とならないよう工夫していくことが望ましいと判断するに至った。また、写真等のカラー化に対する期待は大きいですが、これには予算の制約もあるため、役員会と協議し可能な範囲でカラーページを増やしていくことが現実的である。

一方、情報の共有という点では、例えば、会員が関わる他団体が開催する道内各地の観察会やイベント予定などをエゾマツやWEBに掲載することで、他の地域のイベントに参加する機会が増えるなど、会員どうしの交流の活性化が期待できる。さらに、こうしたイベント情報等を定期的にメールマガジンとして一斉配信する方法もあり得るだろう。また模様替えしたHPの魅力をいかすためSNSを活用し（公式ツイッター等）、美しい写真やユニークな動画などを情報発信してHPに誘導する方法も選択肢の一つである。さらに、一つのアイデアとして、冬の閑散期に各支部の魅力ある活動記録を紹介するリモートイベントを開催してはどうか、という提案もあった。大勢の会員が一度に参加できるリモートツール特有の機能を全道の絆をつなぐコミュニケーションに活かせる可能性がある。

## 5 今後の進め方について

上記の「3. 新たな自然観察会の開発と新会員の加入促進」と「4. 観察ガイド育成と情報共有戦略」の具体策をどうするかは、今後のボラレン活動の活性化に欠かせないが、どちらも一朝一夕に実現できる容易なことではない。このため当検討委の後継組織として『新観察会開発・PRチーム』と『ガイド育成・情報共有チーム』の2つのチームを作り具体策の準備を進めることを提案する。2つのチームに分かれて具体的な準備を進めることで、ビジョンが『絵にかいた餅』に終わらないよう推進力を強め、順次実現させていくことが望ましい。そのためには、現役員の方々だけでなく、様々な経験や知見を持つ会員有志に参加頂き、自然観察会での経験や仕事等で培った個人のスキルを活かし今後の検討を支援頂ければと切に願う次第である。

（追記）三役部長会、役員会での議論を経て、

『新観察会開発・PRチーム』は編集部が、

『ガイド育成・情報共有チーム』は研修部と広報部が担当することになった。

また、協力頂ける会員有志の公募も始めた。両チームは、2023年春に発足後、同年10月末頃までをめぐりに一定の方向性を出し、2024年度の事業計画に検討結果を反映させることを目指して頂きたい。なお、2つのチームは、検討する対応策が密接に関係しあっていることもあり、両チームが別々に動くのではなく、一体となって密に連携しながら対応を進めていく必要があることを付言する。

## 6 その他の検討すべき課題

以上のとおり今後のボラレンの運営を改革していくにあたり、ボラレンの規程類の一部見直しが必要と考える。デジタル化の進展や個人情報保護の社会的要請などをふまえ、今の時代に合った規程類の見直しにより、新たな取組みを行いやすくすることが可能である。また、役員改選時に調整が難航した前回の教訓も念頭に、後継者調整をある程度時間をかけて行える環境整備も必要と考える。

具体的には、以下の3点。

会則の一部改正（役員会のリモート開催を盛り込む、支部幹部も役員会参加の機会を）

個人情報保護のための規定を新設（デジタル化への対応、法人格のない任意団体も法律の対象）

役員選任要領の柔軟化 ⇒ 役員の担い手を確保するための工夫

- ・ 3～4か月かけて自薦・他薦の人選を調整しやすくする
- ・ 選考状況の透明化・周知と各支部の選考への参加
- ・ 2年間の任期の途中での役員補充も可能にする

## 7 検討委員会の参加メンバーからの所感とメッセージ (50音順)

内山 恭子 (江別市)

「ボラレンのこれから検討委員会」では、皆さまのお陰でボラレンについて考える良い機会をいただき感謝しています。アンケート回答には少なからず「ボラレン愛」を感じると同時に、経験を問わず熱意ある人が継続してくれることを願って止みません。

北嶋 徹 (小樽市)

大きな背景としてボラレン継続の姿が明確になった感じがいたします。どの団体でも会員の獲得には苦戦の声が聞かれます。ボラレンは「人と人のつながり」つながりの絆は組織の継続・継承があると思います。若者も役員に参加し時代に応じた運営に期待したいと思います。

藤吉 功 (札幌市厚別区)

所詮は任意団体なんだから..。故あってのボラレン丸の一乗組員。このまま傍観を決め込んで良いのか、と自問自答。検討委員会の記録担当を仰せつかった。アンケートの進展に一喜一憂も、会員の皆様からの率直な声に勇気を貰い、素晴らしいお仲間にご導かれたご縁に感謝。

「言うは易く行は難し..」、本当の正念場はこれからだと肝に銘じつつ。

法師人春輝 (網走市)

検討委員会にオホーツク支部の代表として参画させて頂きました。方向性が見えてきて良かったです。ガイドは「自然と人」「人と人」との橋渡し役であります。我がボラレンは、私の知る限り「人と人」との関わり、ふれあい、結び付きをとっても大切にしてきた組織だと思っています。皆とのふれあいの中から大事なことを学び、ふれあいの中で大事なことを伝える。そうやって切磋琢磨してきたと思います。これからもそういう組織であることを願っています。今後は会長を始め、旧役員さんや諸先輩方、それぞれが培ってきたボラレンの風土や良い所を継承しつつ、若手の役員さんと実務を行うチームメンバー各位の感覚で進めてほしいと思います。

宮津 京子 (札幌市南区)

アンケートの回答で、多くの会員が、地域の他団体での活動を報告されていて、嬉しく思ったと同時に、もっとイベント情報が共有できれば、他地域会員との交流のチャンスが増えるのでは？と感じました。

渡辺 健策 (東京都品川区) ※検討委員会:委員長

皆様のご協力でなんとかここまで続けてこられました。深く感謝致します。アンケート結果を見て、ボラレンが多くの会員にとってかけがえのない魅力ある存在であることがよく分かりました。若者の環境志向やSDGsへの支持拡大など、ボラレンに追い風が吹く中、まだまだトライできることはあるように思います。今後もよろしくお願いします。

### ◆メモ◆

- ①本検討委員会の発足メンバーは、上記の6名と新谷良一さん(江別市)の7名態勢でしたが、  
..<本誌、2022.6.3発行、夏季号141、32ページ参照>..、健康上の理由から、側面的に情報交換をさせていただく形で進行したことを申し添えます。
- ②会員皆様に、二度に亘ってご協力を頂いた「会員アンケート」の概要は、既報のとおりです。  
第1回アンケート(葉書、無記名回答方式、74人) .. 2022.9.9発行、秋季号142、31ページ  
第2回アンケート(封書、記名回答方式、56人) .. 2022.12.2発行、冬季号143、8～9ページ



## トピックス 伊達市在住の木村益巳さん、「植物図鑑風の冊子を自費出版」

伊達市在住の木村益巳さんが、永年に亘り西胆振などの自然を見て歩き撮りためた写真データから厳選し、昨秋、図鑑風冊子『美しくふしぎで面白い西胆振周辺の山野草木』を自費出版されました。



木村さんにおかれては、本誌2021春季136号(12～14頁)のご投稿や、主宰されるNPO法人「森・水・人ネット」が当会ホームページと相互にリンクが張られ、会員の皆様もよくご承知のことと拝察しますが、西胆振を拠点に40有余年に亘り、幅広く実践活動を展開されておられます。冊子は、A5版全148頁。内容は、野草全般、野草園、浜辺、谷藤川溪谷／紋別岳、オロフレ山、静狩湿原、樹木、帰化植物の8区分。各々春から秋と花の咲く順に植物全体と花のアップや果実などが美しい写真で編集構成され、花の所見やコラム記事も目を引きまします。

希望者には、次のとおり有償頒布されます。口座：伊達信用金庫(普)4227827 → @1,000円＋送料180円(スマートレター；A5、2冊まで同封可)

メール申込歓迎 m-kimura@palette.plala.or.jp 要／送り先住所・氏名・電話・冊数

〒053-0831 伊達市乾町84-3 木村 益巳 様 電話 090-7057-3248

☆☆

## 近況コーナー

### ▷ 花と木の図書館シリーズから、興味深い一冊！ (2023.1.12)

最近読んだ「カバノキの文化誌」アンナ・ルウィントン著、野村真依子訳、(株)原書房発行は、とても興味深い一冊でした。

カバノキは、北半球の冷涼な地域の人々にとって重要で有用な樹木であったこと、ロシア文学や映画には象徴的に必ず描かれるし、イタリア・オーストリア国境の氷河で発見された「アイスマン」が携帯していた「カバ細工」の容器に代表されるように、住居、輸送手段、食料、衣料、靴、楽器、薬などに利用されて、それらが沢山の写真や絵画と共に編集されているので、大変読みやすい本でした。

日本でも有益な樹木は数限りなくありますが、地域や文化によって「カバノキ類」がこんなにも昔から生活に密着していた万能の樹木であったのかと、認識を新たにし、春の芽吹きが楽しみになりました。



(江別市 内山 恭子)

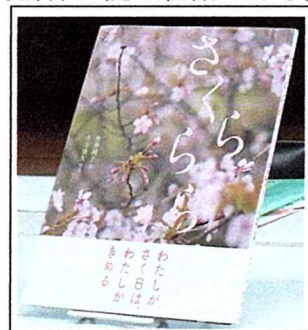
### ▷ 一冊の本が生まれること「さくららら」までの2474日 (2023.1.28)

フリーペーパーの「トークショー」案内で講師名に目がとまった。もしや、エゾマツ141号にご寄稿くださった観察会のお客様では？と。早速、主催者の札幌市中央図書館に応募。

写真絵本「さくららら」(升井純子/文、小寺卓矢/写真、アリス館/発行)の誕生秘話である。

著者のお話によると、キッカケは2014年5月の新聞コラムだそう。～朱鞠内湖畔でようやく桜が開花した。今年の桜前線の終着点だった根室市に遅れること約2週間…。えっ、ようやくって人間の思惑ではー。自然には、自然の都合があるはず！！と。

童話や児童文学作家の升井純子さんは、さくら日線から一気に草稿を書き上げたそう。絵は、ドキュメンタリータッチの写真が良いのと、森に息づく命の輝きをテーマに撮影される十勝在住の写真家で写真絵本作家の小寺卓矢さんとコラボ。しかし、自然が相手。桜の生き様を切り撮ることは、困難の連続。7シーズン目の弥生3月、写真絵本「さくららら」～わたしがさく日は、わたしがきめる～の上梓に秘められた2474日間のエピソードと素敵な朗読のトークショーでした。



(札幌市厚別区 藤吉 功)



## ○大きな”樹木”が待っている！

「巨樹・巨木」・・、皆さんはどんなイメージをされますか。

環境省の「計測マニュアル」によると、地上1.3mの高さで幹周を計測し、原則3m超を”巨木”とカウント。

また、幹周5m超を一般に”巨樹”と呼ぶようです。

これらの”樹木”は、私たちよりもずっと早くこの世に生まれ、私たちよりもずっと先の時代まで生き延びていくことでしょう。

何百年にもわたるその”樹木”の歴史を知ること、その背景に思いを寄せること、その感動を次の世代に受け継いでいくこと・・、手始めは、身近な”樹木”の観察からー。



写真：昭和の森のクリ

## ○野幌の森で著名な巨木は

ここ野幌森林公園では、クリとカツラが巨木のお墨付き？をうけています。(国有林)

森の巨人たち100選 「昭和の森のクリ」 幹周4.5m、樹高18m、推定樹齢800年 2000年選定  
新・北海道銘木百選 「昭和の森のカツラ」 直径133糎(cm)、樹高28m 1989年杭標柱建立

## ○実際に野幌の森を調査してみると・・調査途上\*。

野幌森林公園を守る会が、2020. 7-2021. 2の間、「巨樹・巨木林の基本的な計測マニュアル」に則り、調査したところ、419本の巨木が確認されました。内訳は、カツラ174本(41.6%)、ミズナラ125本(29.9%)、ハリギリ36本(8.6%)、ハルニレ30本(7.1%)、シナノキ25本(5.9%)、さらにはヤチダモ、ホオノキ、クリ、ウダイカンバなど。\*全域踏査、継続中ー[筆者も一部参画]～出典：「野幌森林公園にけるクマゲラ保全活動及び生息環境調査報告書」(野幌森林公園を守る会、2021. 3)



写真：遊歩道脇の立派なハルニレの巨木には、つる性木本も。幹周3.74m [直径1.17m]

### ☆巨木計測の例外樹種



### ☆カラマツは、幹周2mから



### ☆ミカン科は、幹周1mから

### 観察記録の主な項目

実施場所、調査年月日、氏名、樹種名、幹周(m)、樹高(m)、枝張・株立状況、樹勢・欠損状況(枯損・幹折れ・空洞など)、着生植物等(つる性・寄生・着生)、立地(平坦地、尾根筋、傾斜地の場合は斜度と方位)、周囲の高木相・林床の植生、動物生息、根元(樹冠の投影部)の状況、記録写真、スケッチ・方位、緯度・経度、地図に位置と通しNO. ほか気づいたこと



## ○巨樹・巨木ランキング

縄文杉（推定樹齢2,170年～7,200年、樹高25.3m、太さ16.4m）

日本一は、世界自然遺産の屋久島、標高1300mの南斜面に聳える”縄文杉”でしょうか。

→屋久島・宮之浦岳は標高1936m。海拔500m～天然杉。樹齢1000年以上を屋久杉。未満は小杉。道内には、どんな巨樹・巨木があるのでしょうか。環境省と林野庁の調査によると、次のとおりです。また、北海道が指定の「記念保護樹木(全道106)」のほか、『巨樹・巨木』『続／巨樹・巨木』（山と溪谷社）などの書籍も。これらの情報を手がかりに、巨樹・巨木を遊ぼう！

◇「日本の巨樹・巨木林」全国版 1991年、環境庁（現／環境省）編 平成3年12月16日発行

・都道府県別の巨木、上位3位／北海道		・樹種別の全国ランキングで、ベスト10入りの道内樹木	
1 ミズナラ	名寄市 幹周9.10m	イチイ	2 士別市 幹周7.50m 祖神の松
2 トチノキ	七飯町 幹周8.60m		8 芦別市 幹周6.20m 黄金水松
3 イチイ	士別市 幹周7.50m	ニレ	3 上ノ国町 幹周6.20m
→単木測定数 北海道内 472本 全国計 28,800本			5 浦幌町 幹周6.00m
			10 幌延町 幹周5.70m
		ブナ	6 上ノ国町 幹周5.30m
		ミズナラ	3 名寄市 幹周9.10mm

◇「森の巨人たち100選」 2000年林野庁／全国の国有林 道内から11本選定 ※令和4.3.31 HP更新有

ミズナラ	千本ナラ	幹周4.80m	樹高18m	石狩市浜益区送毛
クリ	昭和の森のクリ	幹周4.55m	樹高18m	江別市 野幌森林公園
ニレ	下川のニレ	幹周6.44m	樹高27m	下川町 ～H18風倒、クローン苗木植樹
シナノキ	千本シナ	幹周6.60m	樹高19m	中頓別町敏音知
カツラ	森の神様	幹周11.51m	樹高31m	美瑛町忠別
カツラ	3本カツラ	幹周3.00m	樹高28m	置戸町 鹿の子沢風景林
ヤチダモ	美岬のヤチダモ	幹周4.60m	樹高37m	網走市 能取湖畔
ミズナラ	標茶のミズナラ	幹周5.94m	樹高24m	標茶町
ニレ	十勝三股のハルニレ	幹周3.53m	樹高28m	上士幌町
アカエゾマツ	洞爺湖中島のアカエゾマツ	幹周3.99m	樹高31m	壮瞥町 ～H16風倒、クローン苗木植樹
カツラ	乙部の緑桂	幹周6.10m	樹高40m	乙部町



森の巨人たち100選 NO.1  
「千本ナラ」  
石狩市浜益区送毛・旧道沿

森の巨人たち100選 NO.2  
「昭和の森のクリ」  
野幌森林公園登満別・基線沿

新・北海道 名木百選の木  
「昭和の森のカツラ」  
野幌森林公園・エゾエズリハコース沿



アカミミガメとアメリカザリガニは、2023. 6. 1 より「条件付特定外来生物」に指定されます。

条件付特定外来生物とは、外来生物法に基づき特定外来生物に指定された生物のうち、通常の特定外来生物の規制の一部を、当分の間、適用除外とする（規制の一部がかからない）生物の通称で、現時点では、アカミミガメ（注）とアメリカザリガニの2種のみです。

☆ 2023(令和5)年6月1日以降の規制内容、ポイントは、次の3点です。

アカミミガメとアメリカザリガニの2種に関して、

- 1) 規制開始後も、一般家庭でペットとして飼育しているものは、これまで通り飼うことができます。申請や許可、届出等の手続きは不要ですが、寿命を迎えるまで責任を持って飼育することが求められます。新たに購入することは、できません。
- 2) 池や川などの屋外に放したり、逃がしたりすることは、法律で禁止されます。違反すると罰則・罰金の対象となります。適切な飼育を行わず自力で逃げ出した場合も違法となります。逃げ出さないような容器で、適切に飼育する必要があります。
- 3) 飼い続けることができなくなった場合は、友人・知人・個体の新しい飼い主探しをしている団体等に譲渡しましょう。

この場合も、無償であれば、申請や許可、届出等の手続きは不要ですが、責任をもって飼うことのできる相手を探して下さい。ただし、無償であっても”頒布に当たる行為”（有償・無償を問わず、不特定または特定多数の者に配り分けるような行為..）は、規制されます。

☆ 当面、2種のみが条件付特定外来生物に指定される背景など

・アカミミガメは、かつて縁日の夜店やペットショップで”ミドリガメ”の愛称で幼体が販売され、自分でも飼育の経験があります。ただし、管理不行き届きで死なせてしまいましたが...。これが、逃げ出したり、飼いきれなくなって野に放たれたりし、



いまはでは全国各地に定着。日光浴の場所や食物などを巡って、在来カメ類との間で競合が生じ、在来カメ類に影響を及ぼします。また、食性が多岐にわたるため、在来生物群に大きな影響を与える可能性があります。

・アメリカザリガニも同様、日本全国に広く定着し、水生植物を消失させたり水生昆虫の局所的な絶滅を引き起こしています。また、ザリガニペストや白斑病などを保菌しニホンザリガニを含む在来甲殻類に大きな影響を与える可能性が一。

苫小牧・金太郎の池 で甲羅干しする ミシシippアカミミガメ

・一方で、アカミミガメ、アメリカザリガニとも、飼育者がとても多い生き物であり、単に特定外来生物に指定して飼育等を禁止すると、手続きが面倒などの理由で野外へ放す飼育者が増えることが予想され、かえって生態系等への被害を生じる恐れがあります。そのため、一部の規制を適用除外とする「条件付特定外来生物(通称)」に指定される、という訳ですね。要は、最後まで責任を持って飼育し続けましょう!!

(注)ミシシippアカミミガメ、キバラガメ、カンバーランドキミミガメの3亜種が対象です。



## 事務局だより

### ○ 2022(令和4)年度 第3回「役員会」の概要

とき：2023.1.14(土)13:00-16:25、ところ：札幌エルプラザ2F、出欠状況：12人中出席9、欠席3

#### (1) 報告 前回役員会(9/3)以降における各部の活動状況等について、振り返り次に繋げる。

##### ・事務局

ア 会員の動静・現在数91人（前回役員会時93人。新規入会者1人、退会者3人）

イ 観察会の実施状況 観察記録は、HPに掲載【凡例／一般：一般参加者、本番・下見：ボラレン対応人員】

区分	月/日	観察会	一般	本番	下見	摘要
共催	10/1	秋の森の匂いをかごう	28	13	10	
主催	10/16	晩秋の森観察会	24	14	12	今回から、平坦コースに変更。
共催	11/5	秋のありがとう観察会	15	16	14	ボラレン出席者が、今期最多。
主催	1/8	円山登山観察会	11	5	4	

#### ウ 北海道ボランティア・レンジャー育成研修会（ボラレン協力）の対応

2022.10.22-23、自然ふれあい交流館で開催された今年度第2回「育成研修会」の修了に先立ちボラレンのプレゼンを行い、修了者6人中、新たに1人から入会申込を得た。

#### エ ボランティア活動保険（会員の傷害等補償）・報告と協議＜※今役員会での決定事項＞

2022.12.2付けで令和5年度保険加入手続きの通知文を発し（エゾマツに同封）、目下、返信ハガキ（切手、各自負担）で加入希望者を取りまとめ中。〆切、1月末迄。

※ボラレン活動中における傷害等について、当該保険の加入手続きをしていなければ一緒に活動中であっても、補償されない会員が生じる。継続会員は、本件意向確認に基づくが、新入会員に関しては、当該年度について入会申込書受理の時点で加入手続きを行う。

\*参考／ボラレンでは、並行して「ボランティア活動等行事用保険」にも加入してる。こちらは、行事参加者が偶然な事故でケガをした場合の傷害補償、主催者が法律上の賠償責任を負った場合の賠償責任補償がセットになった保険で、参加者には一般参加者のほか主催者・スタッフを含みます。 ※※両保険とも、加入手続き(4/1)以降～年度末迄の単年度契約。

・研修部 9月21日(水) きのご研修会 於；真駒内(通称・桜山) 講師の松原会員含め8人

・広報部 観察会報告書、会報誌エゾマツなど、随時、ホームページを更新管理

・編集部 12月2日付け、エゾマツ2022冬季号(143)の発行。3月3日付け144号発行予定。

なお、143号の印刷発送には、諸事情により、急遽、新入会員1名の応援を得た。

#### ◆ボラレンのこれから検討委員会 関係

9/3、10/15、11/12、12/3 と月1回のペースでZoom会議を開催した。全会員を対象とした2回のアンケートによる会員意向調査を踏まえ議論を深め、「北海道ボランティア・レンジャー協議会の今後の運営について(報告書)[第2案]」を取りまとめ、会長に報告するとともに、今後も検討・協議を重ね(1/21、2/25)報告内容を確定し、次期定期総会に報告へ。

#### (2) 協議事項

・令和5年度定期総会、研修会日程等について

日程 2023年4月15日(土) 13:30-受付、13:30-15:00 研修会、15:15-17:00 定期総会

会場 北海道立道民活動センター(かでの2.7)1070会議室(10階) 札幌市中央区北2西7

内容 議案書(案)、総会準備等について、協議した。

・ボラレンのこれから検討委員会の報告書[第2案]を踏まえて

役員会としても会員意向並びに報告内容を尊重し、ボラレン継続の方向で最大限の取り組みを行うことで一致。提起された2つのチームは、「ガイド育成・情報共有チーム」を研修部・広報部で、「新規観察会開発・PRチーム」を編集部マターで取り組む。

チームメンバーは、役員から各々2-3名に加え、会員からも広く参加者を募り、総勢10人程度を目途とする。会員からの検討会参加は、透明性を確保する観点から公募制とする。全会員に対する周知は、エゾマツに掲載がベストではあるが、迅速に対応する趣旨から、メーリングリスト等を活用するなどして準備を進め、定期総会に諮り立ち上げたい。原則、メールやZoom会議を活用し検討協議を進める方向。 概略以上 編集部





## お知らせ

- 2023(令和5)年度「研修会」並びに 第38回「定期総会」のご案内(再掲)  
開催日程 2023年4月15(土) 13:00-受付、13:30-「研修会」、15:15-「定期総会」  
開催場所 かでる2・7(北海道立道民活動センター) 10F「1070会議室」 札幌市中央区北2西7  
総会議題 第1号議案 2022(令和4)年度事業報告、決算報告並びに監査報告  
第2号議案 2023(令和5)年度事業計画(案)、収支予算(案)  
第3号議案 「ボラレンのこれから検討委員会」報告  
第4号議案 その他

※同封の「返信用ハガキ」で出・欠報告並びに議決権行使など。→3月19(日)迄にご投函を！

- 事業計画(案)について～会員皆様の年間スケジュールに予定のうえ、ぜひご参加を。  
2023(令和5)年度「事業計画」(案)については、4月15日開催「定期総会」議決案件です。  
このうち、共催事業(自然観察会及び育成研修会)について、道立自然公園・野幌森林公園に所在の「自然ふれあい交流館」を運営する(一財)北海道歴史文化財団が、来年度から5か年間に亘る道の指定管理者制度の申請手続中ですので、あくまでもエゾマツ発行時点における仮置き計画(案)であることをご了承下さい。  
併せて、ボラレン活動のPR促進に鑑み、来年度は一般用のチラシを2パターン制作・配布することとし、4、5ページ掲載(予定稿)のとおり準備中です。  
小樽支部の自然観察会予定表は、6ページ掲載のとおりです。  
オホーツク支部については、支部総会(5月予定)を待って、次号エゾマツなどで適時のお知らせを考えておりますことを申し添えます。

- ボラレン「2つの検討チーム」の参加者を募集～ぜひあなたのお知恵を明日のボラレンに！  
15～18ページに掲載のとおり「ボラレンのこれから検討委員会」から報告書の提出があり、提案に沿って2つの検討チームを立ち上げる方向で、定期総会に報告・お諮りする予定です。  
つきましては、予め検討メンバー(候補者)を広く会員の皆様から募って準備をすすめ、新年度の早い段階で、一定程度の成案を取りまとめられれば、との思いです。  
ネット環境の会員さまには、既に、会長から「二つのチーム参加のお願い」と題するメールが発信されたところですが、改めて、本誌上をもって広く検討チームの参加者を募ります。  
ご参加をいただける方は、ぜひ、春日会長宛、ご一報下さるようよろしくお願いいたします。  
→ 〒004-0865 札幌市清田区北野五条5丁目6-5 TEL/FAX. 011-881-4090  
春日 順雄 E-mail yorior12@kca.biglobe.ne.jp

## 編集後記

- ・今号では、円山登山観察会のお客様からの寄稿をはじめ、会員の皆様からは、ソフトタッチの随筆、“そうそう、おやまあ”と興味深い内容の投稿が誌面に光彩を添えていただきました。
- ・検討委員会の報告とともに、網走支部のレポートに、今後の展開に一つの光明を感じました。
- ・さて、年度内の観察会は、3月12日(日)小樽支部の天狗山周辺自然観察会～申込は3/11迄～と、3月16日(木)9:50-11:00の自然ふれあい交流館との共催観察会「森の中で春を探そう」の2件となりました。何かと多忙な時節柄ですが、ご都合を付けられ、活動を盛り上げましょう。

以下、各編集子から

- ▷ 急に暖かくなり、雪どけも一気に進みそうです。  
草木の芽吹きとの出会いが楽しみです。(K/M)
- ▷ “光の春” マスク生活が長引いたせいか、紫外線対策をサボっていたら、なんと不覚にも雪焼け!! 植物や動物たちは嬉しそう。羨ましいです！(K/Y)
- ▷ 朝夕、日が長くなっていることを実感しています。陽の光に暖かさを感じ、春の来訪に気持ちが明るくなっている自分がいます。(Y/Y)
- ▷ ピヒラヤとは、フィンランドでナナカマドのことだそう。道内では、37の市町村がシンボルツリーに指定。野鳥たちが真っ赤な果実を求め、この冬もとても賑わいました。(I/F)



スプリングエフェメラル／ケシ科エゾエンゴサクとボラレン・エンブレム

☆本誌は、原則、墨一色(モノクロ)印刷ですが、カラーは、HPで。

ボラレン・ホームページの ” 会員コーナー ” <入室キー: v o l u> に、  
「会報誌のバックナンバー」コーナーを設け、随時更新(追加掲載)しています。  
創刊号から最新号まで、全誌面データが揃っています。ぜひご訪問ください。

北海道ボランティア・レンジャー協議会

会報誌「エゾマツ」2023 春季号 144

令和5年3月3日 発行

発行責任者: 会長 春日 順 雄